

京都府山城地域の放課後児童クラブにおける自然体験の現状と課題

11503 新大毅

指導教員 市川智史教授

1. はじめに

近年、共働き家庭や母子、父子家庭の増加にともなって、「放課後児童クラブ」を利用する児童は年々増加している。一方、自然の中で遊びながら、様々な体験を日常的に積み重ねて成長する機会が減り、子供たちの成長における大きな問題とされている。「放課後児童クラブ」は、子供たちの日常的な自然体験に貢献できると考えられるが、その現状はどうであろうか。そこで本研究では、「放課後児童クラブ」での自然体験の促進に向けて、筆者の出身地である京都府山城地域の「放課後児童クラブ」における自然体験の現状と課題を明らかにすることを目的とし、加えて今後の方策を検討した。

2. 方法

児童クラブでの自然体験の現状と課題、指導員の考え方を明らかにすることを目的として、京都府山城地域の児童クラブ 97 か所を対象に、質問紙調査を実施した。調査項目は、児童クラブの概要(所属地域、児童数、スタッフ数、設置場所、指導目標)、自然体験の現状(屋外での遊びの頻度と内容、飼育・栽培の有無と内容、自然体験に関する行事の有無と内容、自然体験の推奨状況、自然体験の困難さに対する考え)、自然体験を行う上での課題(自然体験が困難である理由)の 11 項目を設定した。また、質問紙調査において、児童の自然体験に積極的に取り組んでいた「大山崎町でっかいクラブ」の指導員にヒアリング調査を実施した。

3. 結果

質問紙調査の結果から、8 割以上の児童クラブで、児童が放課後によく屋外に遊びに出かけていることが分かった。しかし、遊びの内容を見ると、サッカーやドッジボールといった回答が多く、子供たちは自然や生き物に触れる遊びよりもボールを使い、体を動かす遊びをしていることが多かった。また、動植物の飼育・栽培を行っている児童クラブは約 4 割、自然と接することや自然の中で遊ぶ行事を行っている児童クラブは約 3 割と少なく、児童クラブでは児童が自然体験をする機会が積極的に設けられていなかった。児童に自然と接することや自然の中で遊ぶことを推奨している児童クラブは約 4 割であった。6 割強の児童クラブが、児童クラブで児童に自然体験をさせることは困難であると認識していた。児童クラブでの自然体験の実施に関しては、体験場所が最大の課題であり、次いでスタッフ数、安全管理、時間的なゆとりが主たる課題であることが明らかとなった。

ヒアリング調査の結果から、「大山崎町でっかいクラブ」では、施設の敷地内の木にロープやはしごを設置するなど、児童の自然体験に向けて指導員が体験場所に様々な工夫をしていた。このように自然体験の実施に関しては、指導員が自然に関心を持ち、児童の自然体験に向けて積極的な姿勢を示すことが重要であると言える。また、保護者が児童の自然体験に理解を示し、協力的な姿勢を持つことも、自然体験を実施するうえで重要であることが明らかとなった。

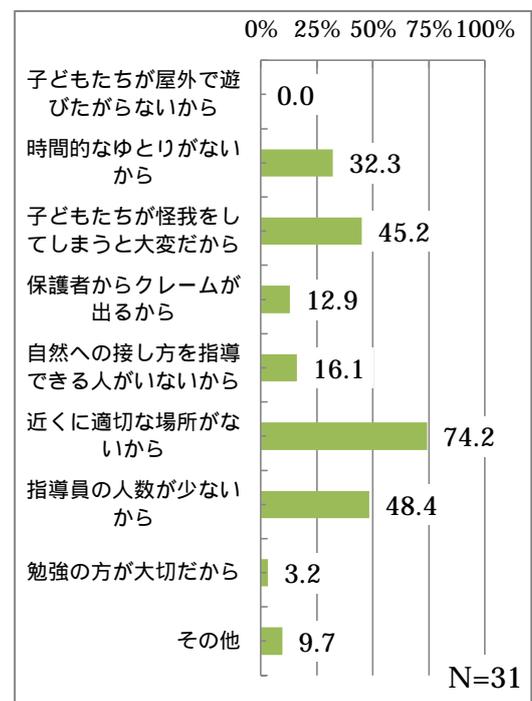


図1 自然体験が困難である理由